



昨年12月、理事長に就任しました目賀田です。どうぞよろしくお願いいたします。
私は、2014年11月まで、40年間外務省に勤めましたが、振り返りますと開発途上国に長く関わりました。海外勤務7か国のうちレバノン、インドネシア、中国そしてペルー、メキシコの5か国が開発途上国でした。最後は、すっかりラテン系になり、インカ、アステカ、マヤなどの古代文明、自然や文化の多様性、豊かな色彩や音楽に魅せられました。

また、パリのOECD日本政府代表部時代は、途上国の発展に資する投資の促進が課題でした。本省では中東、東南アジア、アフリカ等の地域を担当し、また、経済協力局（現、国際協力局）には合計7年務め、OECD・DAC、開発調査、技術協力、青年海外協力隊、援助政策、ODA予算等様々な仕事を経験しました。

ベトナムへの援助再開や中央アジアへの援助開始のための案件発掘ミッションは懐かしい思い出です。草の根無償援助の関係で中国やメキシコの奥地の村を訪ね、現地のご馳走で歓迎されたことなど楽しい思い出です。ペルーでは、一村一品運動の手法の紹介に努め、当時のペルー政府の農村開発政策として採用されたことは、誇らしい思い出です。

これらの国々では、貧しいながらも自然と調和した生命力やのんびりした人間の営みに時として共感を覚えることもありました。他方、災害や疾病には脆弱で子どもたちがその能力を発展させる上での制約も多く、人間の尊厳や貧困からの自立のための手助けが必要な状況も多く見られました。そして、各地域で日本のNGOの方々の活躍を目の当たりにしました。NGOならではの視点、きめの細かい取り組みなど大変重要です。1人や1つの団体でできることは限られていても、同じ目標を共有して同じ方向で連帯していくことにより、大きな成果を上げることもできるでしょう。

私のこれまでの経験を活かし、ケア・インターナショナル ジャパンを通じて、世界の善意の連帯の一端を担って、皆さんとともに取り組んで参りたいと思います。

事務局からのご連絡

歩く国際協力「Walk in Her Shoes 2016」が始まります



今年も「国際女性の日」の3月8日（火）から5月31日（火）まで、CAREのグローバル・チャリティーウォークキャンペーン、歩く国際協力「Walk in Her Shoes」を開催します。期間中、4月23日（土）に大阪の深北緑地で、5月22日（日）に東京都内で、チャリティーウォークも開催します。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。詳細は当財団のHPからご覧いただけます。

◀ 参加者500人で「1億5千万歩」を目指します

つながる国際協力「CARE スマイルギフトキャンペーン」へのご協力ありがとうございました



日本と東ティモールの人々を「笑顔」でつなぐ「CARE スマイルギフトキャンペーン」。4年目となった昨年の取り組みも、多くの個人、団体、学校、企業等の皆さまの温かいご支援に支えられ、目標を達成することができました。心から感謝申し上げます。

本年2月には、担当者が東ティモールを訪れ、皆さまからのご支援を学習雑誌「ラファエック」2015年3号に変えて、農村地域に住む人々に届けました。2016年も日本と東ティモールにおいて笑顔の輪を広げていきたいと思っておりますので、引き続き、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

◀ 今年もたくさんの方々の笑顔に出会うことができました

個人支援者専用ダイヤル



TEL : 03-5944-9931

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階 TEL : 03-5950-1335 FAX : 03-5950-1375 E-mail : info@careintjp.org
Website : www.careintjp.org Facebook : www.facebook.com/CAREjp Twitter : https://twitter.com.CAREjp

※ 小誌へのご意見、ご感想を募集しています。発行元までお寄せ下さい。

※ このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREのデザインボランティアの古野 真菜様のご協力により、制作されています。

CARE World

Vol. **30** ケア・インターナショナル ジャパン
Newsletter
March 2016

変える、女性も女子も活躍する豊かな世界に



国際協力 NGO 「CARE」は、1945年から100カ国以上で人道支援活動を実施してきた世界最大級の国際協力 NGO です。
日本事務局である当財団では、主にアジアやアフリカにおいて、災害時の人道支援を行うとともに、「女性と女子」に焦点をあてた活動を通して、最も困難な状況にある人々の自立を支援しています。

Contents

- page **1** 遺産寄付
- page **2** ガーナ新規事業
- page **3** 東ティモール新規事業
- page **4** 新理事長ご挨拶 & 事務局連絡

遺産寄付、それは未来への贈り物

本年2月、外務省 NGO 研究会を通じて、遺産寄付の状況調査のためオーストラリアを視察する機会を得ました。「人は誰でも困っている人を助けたい、危機に瀕する状況をよりよくしたいと、必ず心のどこかで思っている」。オーストラリア視察で訪れた多くの団体で聞いた、印象的な言葉です。この「琴線」に触れるための努力が、日々行われています。日本と同様、オーストラリアでも「遺贈」は終焉を連想させるため、積極的にアピールすることは難しいそうです。それでも、遺贈が世界の状況を大きく変えることを、熱心な支援者に対して、徐々に、ソフトに、そして丁寧に訴え続けることで、成果が見え始めているといえます。ある環境保護団体に寄せられた、遺贈された方の娘さんのお話をご紹介します。

「家族は父がこの団体を支援していることを知っていました。また、私たち次世代の環境への父の想いも共有していました。父の遺贈を誇りに思います。この団体の活動が父の遺産の一部であること、そして父がそこにいるように感じます」。

変わりつつある日本

日本でも、遺産をめぐる環境に意識の変化が見られます。遺言件数が増えており、2015年の公証人役場での公正証書遺言は、年間10万件を超え急増しています。また家庭裁判所に持ち込まれる遺産分割争いも、近年大きく増えています。遺産の用途についての調査（「寄付白書2013」）では、子どもに残す、配偶者に残す、非営利団体に寄付する、親戚に残すという順になり、寄付の躍進が目立ち、遺産寄付の意思がある人に対する調査（「寄付白書2015」）においては、寄付理由として、「その団体を支援したいから」、「他人や社

会のためであり、問題の解決に役立ちたいから」という回答が多くありました。

戦中・戦後の世代は、第二次大戦後の焼け野原で、海外からの援助などで必死に生き抜きました。1948年から8年間にわたり全国に配られた「CARE パッケージ（ケア物資）」も生きる糧を人々に与えました。今の世代であれば、東日本大震災に際し多くの国から支援が寄せられたことが記憶に新しく、今もなお被災地は復興の途上にあります。

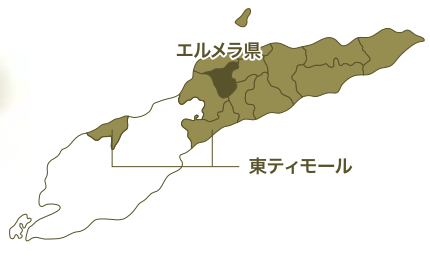
当財団も各国からの寄付などにより被災者支援を行いました。東日本大震災では、日本が支援してきた開発途上国からも、寄付や支援が届き、我が国は2012年に「世界でも最も援助を受けた国」となりました。助ける・助けられる、支援は巡り巡って戻ってきます。実際に国際協力に遺産寄付をした人の中には、遺贈は、「戦後に受けた支援への恩返し」と語る人もいます。想いを海の向こうの社会に託す。遺産寄付は世代を越える未来への贈り物となるでしょう。ご本人の想いが世代を超えて続き、未来の社会を創る、そんな「想続（そうぞく）」を我々はサポートしていきます。

（常務理事・事務局長 武田 勝彦）
CARE オーストラリアが作成した遺贈のパンフレット日本語のパンフレットをご希望の方は当財団まで





ガーナと東ティモールで新しい事業を開始します



乳幼児の栄養改善事業

赤ちゃんの栄養改善を目指して、貧困層の女性たちが起業家として活躍

外務省の助成を受け、これまで当財団がガーナで味の素株式会社と連携して行ってきた「ソーシャルビジネス事業」の規模と対象地域を拡大して、「乳幼児の栄養改善事業」として実施します。

事業の背景

首都アクラから北 650 キロに位置する北部州イースト・マンブルーシー郡は、経済成長が著しいガーナにおいては、貧困状態が残る地域です。ガーナの貧困層のおよそ 40% の人々が北部で暮らしており、とりわけ、北部州の 5 歳以下の子どもの栄養失調の状況は悪く、33% が発育阻害（低身長）、20% が低体重、82% が貧血であり、この地域の貧困と連動しているといわれています。子どもの栄養状態の改善は、将来的な貧困の予防の点からも喫緊の課題となっています。

事業の目標

この事業では、対象地域において、2 歳未満児の栄養と健康状態の改善を目指すとともに、両親を含む保護者の果たす役割が重要であることから、主に保護者を対象にした栄養啓発と食習慣の改善を図ります。また、家長的文化が残るガーナ北部では、女性は家計に関わる決定の場で、往々にして排除される傾向があります。女性の経済的なエンパワメントが、ジェンダーの平等を進め、生活の向上に大きく寄与することから、本事業においても、引き続き、女性の起業家の育成を目指します。

主な活動

1. 保護者らを対象とした乳幼児の栄養啓発

コミュニティ・ヘルス・ボランティア、栄養教育係及び男性啓発員に対して、ガーナ保健局が推奨する栄養や適切な食事の摂取方法などについての研修を実施し、身につけた知識を現地方言で発信できるようにします。また、先行のソーシャルビジネス事業の教訓を踏まえ「カウンセリングカード*1」や、男性を巻き込むための「お父さんポスター」の再開発も行います。



▲ 村内貯蓄組合の様子。金庫は全員が集まったところで開けられます

2. 保護者らを対象とした乳幼児の食習慣の改善

適切な食事の摂取習慣に関する調理実演や演劇グループによる寸劇などを通じて、乳幼児の保護者らが三色栄養素の重要性、野菜の調理法、タンパク質や鉄分を効果的に摂取できる食事、大豆レシピなどについて学べる場を提供します。

3. 女性の経済的エンパワメント

村内貯蓄貸付組合*2 の設立に向けて、現地パートナーの協力を得て、コミュニティ・リーダーの理解も得つつ、組合員の研修を行います。また、ソーシャルビジネス商品（栄養補助サプリメント「KOKO plus」）を販売促進する女性起業家を育成します。

これら活動を通じて、乳幼児の栄養が改善されるのみならず、男性の巻き込みも図ることにより、ジェンダーの平等が推進されることが期待されます。

*1 先行事業においてガーナ保健局と共同で開発した、乳幼児の栄養と健康に関する情報を盛り込んだカード。文字が読めなくてもイラストから理解できるよう工夫されています。
*2 20～25 人の女性からなる組織で、各人が少額の現金を預けグループで管理する仕組み。女性たちは、グループで管理する資金から融資を受けることにより、農産物加工、販売、塩などの小分け販売等、各々のビジネスを起業することが可能になります。自分たちの村や近隣の村の住民がビジネスの顧客となります。

ガーナに赴任します 早水 綾野 プロジェクト・マネージャー

「I am powerful」という CARE のコピーを聞いたことがありますか？「現地の人々のパワーを信じてサポートする」というそのアイデアは、私が現地に入るときのポリシーそのもの。現地の人々が思いきり頑張れる環境づくりをするのが私の仕事です。実際、パワフルな仕事人とかをやり遂げたときの喜びは、一生の宝物。ガーナの人に寄り添い、お互いに切磋琢磨しながら成長し合えるプロジェクトを目指して、頑張ります。



▲ コミュニティ・ヘルス・ボランティアの研修を行っています

農村地域の生計向上事業

持続的で多様な生きる手段の構築と女性のエンパワメントを目指して

外務省の助成を受け、当財団は、本年 2 月から 3 年間、エルメラ県アッサベ郡の 4 村内 22 集落村において、15 名からなる 30 の農民グループ（約 450 名）を対象に、本事業を実施します。

事業の背景

首都ディリから南 45 キロに位置するエルメラ県アッサベ郡は、貧困に苦しむ農村地域で、人々の暮らしはコーヒー生産とその収入に過度に依存しています。また、気候変動に伴う災害の多発により農業生産は安定していません。このような脆弱な生活基盤に加え、農作業や家畜の世話、市場での農産物の売買等において、女性が重要な役割を担っているにもかかわらず、生活に関わる意思決定の場への女性の参加が十分に確保されていません。その結果、地域の貧困が助長されています。

事業の目標

この事業では、農業分野における持続的で多様な生業手段の構築に向けて、災害等にも強い農業技術を適用し、農産物の安定的な収穫と生産性の向上を目指します。また、農産加工品の技術移転によって、収穫物の一部や加工品を市場で販売できるよう、積極的に地域農業を経済活動へとつなげていきます。同時に、その過程においては、女性たちが経済活動や意思決定にも積極的に参加できるように、女性のエンパワメントも図っていきます。

主な活動

1. 技術研修と実演

災害に強い農業技術研修、農産加工品技術研修、販売のためのビジネス研修、農業技術の実演、市場販売フェアの実演などを通じ、農民グループは、必要な技術と知識を身に付けます。

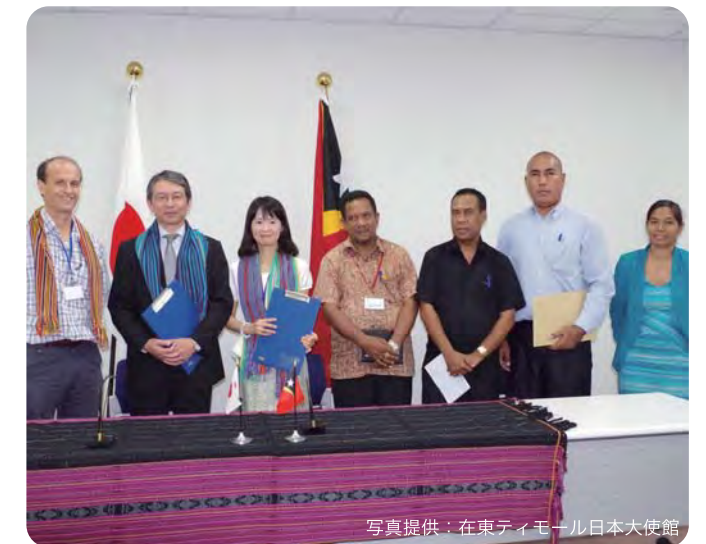
2. 集落強化に向けたアクションプラン策定

技術研修等の活動の集大成として、農民グループが地域

の生業の安定と向上に向けた中長期計画を策定することで、事業終了後も農民グループが自立して活動を継続実施していくために必要な力を身に付けます。

3. 女性のリーダーシップ育成と男性を巻き込んだ活動
農民グループの女性メンバーを対象に、女性のリーダーシップを育成するとともに、農民グループの男性メンバー、女性メンバーの夫、郡男性職員らを対象に、文化的社会的な男女の役割分担や差別について、男女の意識と行動の変化を促します。

これら活動を通じ、地域が主体となって、継続的な生活の向上につなげていくことが期待されます。



▲ 本年 2 月に在東ティモール日本大使館にて署名式が行われました



▲ 30 のグループうち、10 の農民グループは女性だけで構成されています



▲ この事業を通じ男性の意識と行動が変わることが期待されています